
銃を交わそう

清明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
銃を交わそう

【Nコード】
N0333F

【作者名】
清明

【あらすじ】
君と僕は世界を否定した。救いを求めた僕のモノローグ。

（前書き）

小説が書きたくて文章を学んできましたが、たまには詩も良いかな
と思って書いてみました。殆ど自己満足です。自分なりの救いを求
めて。

銃を交わそう

二人なら世界が敵でも怖くないから

君は赤で僕は黒

君はいつも不敵に微笑んでいたね

世界中が敵になったみたい
吐き気を覚えるような日常

膝を抱えて鬱ぎ込む

僕は此処に居たくない

泣き疲れて空を見上げると
何時の間にか君が居た

絶対的な意思を抱いた
その不敵な笑顔

差し伸べられた華奢な手は
小さいのにとっても大きくて

肩越しに触れた柔らかな髪
なぜか鼻に付く硝煙の香り

こんな痛いだけの世界で
君だけが確かな温もりだった

僕は問う

なぜ傍に居てくれるのかと

君は笑う

普通じゃつまらないからと

可憐に戦う君に

僕の鼓動は高鳴ってばかり

きつとこれは銃声のせい

君は見ないふりをした

僕も知らないふりをした

曖昧に笑うのは嫌いだった

空虚な寂しさが僕を嗤う

お前は所詮独りだと

君が居れば自然に笑えたんだ

魅入ってしまうほど美しくて

僕の色は満たされて

世界は少し綺麗に見えた

銃を片手に勇ましく

閃光に栄える白い横顔

どうしてだろう

君はいつもと同じように

不敵に微笑んでいるはずなのに

君の瞳は寂しげで

幽かな硝煙と一緒に

どこかへ消え入ってしまいそう

世界には敵しか居ないけど

君の背には僕が居る

その事を忘れないでいて欲しい

僕はまた曖昧に微笑んだ

忘れていた虚しさの足音が聞えた

ある日 君は僕に弱さを見せた

他人を否定し続けた君は

何時の間にか居場所を無くしていた

糸の切れた操り人形

強がりと言う名の君の銃

君の手から滑り落ち

弾はとつくに尽きていた

誰もが君を見ないふり

わかっていたはずなのに

僕は君に甘えてた

これが報いだというのならば

逃げ出すことは簡単だった

現実には背を向ける

誰もがやってる自己保身

だけれど僕は

あえて それを否定しよう

君の為なんかじゃないよ

僕は世界で一番のあまのじゃく

僕は死んではいなかった

だけど生きてもしなかった

曖昧に笑うのはもう嫌だ

死ぬにしても 生きるにしても
心の底から笑いたい
たとえ それが作りものだとしても
願わくば君の隣で肩をならべて

僕は君にキスをする

君の瞳に光が戻る

あらがうことを教えてくれた君

こんどは僕が銃を撃とう

君はひとりじゃないから

銃は少しさびていたけれど

まだ引き金は引けるんだ

君の怒りと絶望を

残った最後の弾に込め

僕は君の銃を持つ

銃口は世界に向けて

僕等を否定する想い達

それを今 撃ち砕こう

君の銃はとても重くて

僕の手は震えてた

君の手がふと触れる

それはとても温かくて

おびえる両手は包まれた

君はやっぱり強かった
たったそれだけで

僕の中の虚無は死んでしまったから

もう何も怖くない

僕等の手中で銃がほえる

拍子抜けなぐらいに

さびついた引き金は軽かった

思いのこもった弾丸は

僕等の敵（世界）を否定した

僕は問う

これで良かったのかと

君は笑う

見たこと無いくらい穏やかに

それがすべての答えだった

僕等がまた何かに否定されたら

二人でそれを否定してやれば良い

銃を交わそう

二人なら何が敵でも怖くないから

僕は黒で君は赤

君だけを肯定しよう

他には何もいらないから

二人で生きよう　生きつづけよう

君は此処に居るから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0333f/>

銃を交わそう

2010年10月11日15時46分発行